第 97 回長崎大学 FD 教育革新シンポジウム

「主体的な学びを促進する支援環境について考える」

１．趣　　旨：

今，大学においては主体的に考える力を持ち，予測困難な時代の中で，どんな状況にも対応できる多様な人材の育成が急務となっている。学士課程教育の質的転換を実現し，学生の主体的な学びを確立するためには，個々の教員がそのことの重要性を自覚し個々の授業をさらに質的に進化させ，十分な質を伴った学修時間を確保することが必要となってくる。

本シンポジウムでは，学生の主体的な学びを促進する支援環境として教学システムやポートフォリオに着目し，日本におけるポートフォリオ研究の第一人者である帝京大学の土持ゲーリー法一氏をお招きしご講演いただくとともに，各大学の先進的な事例をご報告いただく。また，本学の教育改革が目指す方向性や，本学が構築を進めている主体的学習促進支援システム(ＬＡＣＳ)について現状をご報告する。

２．日　　時：平成 25 年９月１２日（木）13:00-17:30

３．会　　場：中部講堂

４．主　　催：教務委員会

５．企画・実施：大学教育機能開発センター・情報メディア基盤センター

６．対　　象：大学教職員・長崎大学生

７．プログラム

総合司会：　▶ 長崎大学副学長（情報担当）　松田　浩

13:00～13:10　**開会の挨拶** ▶　長崎大学長　片峰　茂

13:10～13:30　**長崎大学に導入する主体的学習促進支援システム(LACS)について**

▶　長崎大学理事（教学担当）　佐久間　正

13:30～14:30　**基調講演「主体的学びにつなげる学修ポートフォリオのための授業設計」**

～ICE ルーブリックによる新たな評価方法～

▶　帝京大学高等教育開発センター長　土持ゲーリー法一 氏

14:30～14:45　**休 憩**

14:45～15:15　**事例報告１「新潟大学学士力アセスメントシステム（NBAS）の目指すもの」**

▶　新潟大学理事（教育担当）・副学長 生田　孝至 氏

15:15～15:45　**事例報告２「ｅラーニング大学院のカリキュラム設計と学習環境及びそのｅポートフォリオ」～熊本大学教授システム学専攻の事例から～**

▶　熊本大学総合情報基盤センター長・教授 中野　裕司 氏

15:45～16:15　**事例報告３「ｅラーニングからｅエデュケーションへ」**

▶　玉川大学ｅエデュケーションセンター長・教授 橋本 順一 氏

16:15～16:25　**休　憩**

16:25～17:25　**パネルディスカッション**

▶ **司会：**長崎大学情報メディア基盤センター教授　丹羽 量久

パネリスト：

▶　帝京大学高等教育開発センター長　土持ゲーリー法一 氏

▶　新潟大学理事（教育担当）　生田　孝至 氏

▶　熊本大学総合情報基盤センター長・教授 中野　裕司 氏

▶　玉川大学ｅエデュケーションセンター長・教授 橋本 順一 氏

▶　長崎大学学長特別補佐　橋本　健夫

17:25～17:30　**閉会の挨拶** ▶ 長崎大学　理事（教学担当）　佐久間　正

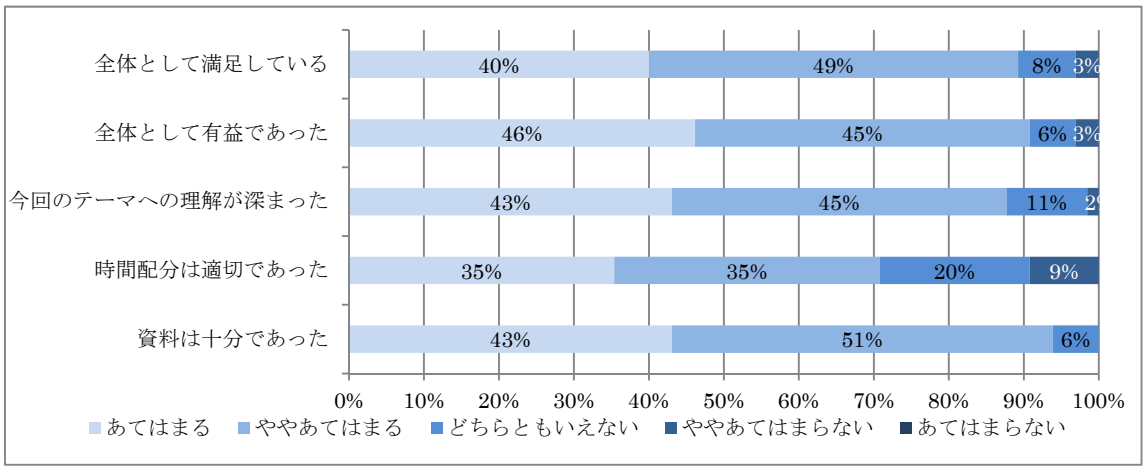
８．参加者数

総計：167 名（うち教職員 140 名，学生 10 名，学外者 17 名）

９．実施したＦＤの成果等

今回の講習会では主体的な学びと，それを促進する支援環境について他大学の事例などから学び，理解を深めた。受講者に対して実施したアンケートの結果，9 割近くの受講者にとって有益で満足なものと受け止められており，今後の教育改革について考える意見も多くみられた。アンケートの結果は以下のとおり。

【参加者からの評価】(回答者：65 名)



○　主体的な学びを促進する支援環境に関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入ください。

・　全学的に大きく広めていくために、トップダウンだけでなく、インセンティブを与えて欲しい。ボトムアップが必要です。

・　基本的な考え方から実践に至るまで、非常に幅広い話題を拝聴でき、大変勉強になりました。後期の授業に生かしていくべく、検討を深めたいと思います。

- 「授業の振り返りが重要」との話が印象に残った。
- コンテンツの充実をどのようにサポートするか、先生の努力をどのように評価するか。
- WebClass（LACS）について学生がどれくらい有用であると感じているか全学的にアンケートをしたらいかがでしょうか。学生の強い声があれば教員も動かされると思います。
- 講演内容に正直ついてゆけなかった。それは自分の知識のベースがないからか？それとも講師が利き手への配慮がないからか？聴衆が求めているものと講師の与えているものが違うからか？そういう意味で、玉川大学の橋本先生の報告は、一番今回の目的にマッチしたものでよかったように思う。
- MIT 方式試験、コンセプトマップ導入してみたいと思った。また、Webclass を使ったことはないが、LACS は使ってみたい。
- 整備した環境を上手く活用していけるよう、教職員の意識を変え、本当に学生にとって利用しやすい支援環境を作り上げていくことが重要だと感じた。事務からの連絡等もシステム上で行うようにし、学生・教員・職員の連携がスムーズに行える環境を作り上げていきたいと思う。
- 第 1 講演者の内容が特に有益であった。他 3 名の事例紹介は本学の実態と変わらないようで、特にシンポとして聴講する内容とは感じなかった。
- ※最大のテーマ（課題）：教員をどう変えるか、変えられるか！（システムの導入は時代化で必要です。）
- 学生同士が学び合う環境をどう実現させるか。何をやるべきかなど議論できればと思います。
- 問題点はシステムだけではないと考える。より主体的学修のための教育に関する大きな問題が残っていると思う。
- 教員と学生が双方向で学習するツールがこれまで以上に充実することで、学生の理解やコミュニケーション能力は、大幅に伸びると考えられる。
- 新潟大学や熊本大学のシステムと比較すると長大 LACS は本来の理念や教育システムの具体的改善へのつながり、学生や教員のニーズなどへの配慮がまるで欠けているということがよくわかりました。それらなしにただ何かつくればよいという事で、拙速に進められているようです。
- 幼児期より始めないと非常に困難である。特に受験勉強を目的とした長年の教育の影響が大きい、かと言って、日本では主体的学びを促進する授業が根付きにくいのはゆとり教育の失敗を見ても明らかである。
- 事務職員として教員と学生の間でどうサポートしていくのかについて、もっと考えていかなければならないと感じました。
- 従来の知識型教育を主体的学修に大きく改革することが必須であり、長崎大学として大きな改革の熱意を感じる。内容は 1000 人の改革がどこまで熱意をもって徹底してやるかが問題でそのめどがついていない。どうやってその成果を可視化するのか！その道筋を明確にすべきである。
- 玉川大学の橋本先生の説明がわかりやすかった。
- 学部によって導入の仕方、利用の仕方が大きく変わるように思う。各学部の職員とと

もに状況をみてすすめていくことが必要ではないか。

- 事務職員ですが、主体的といいつつ職員からのフォローする機会が増える（例えば、出席回数により連絡等）を危惧しております。
- 学生が今まで以上に学びやすい環境を作ってほしいと思います。学生が操作しやすいシステムを導入していただきたいです。紙媒体を減らす方向で、これからの授業や試験を進めていっていただきたいと思います。
- 大学での e-learning がどのように活用されているか詳しく説明があったので理解できました。
- アメリカでは 1991 年頃からアクティブラーニングが注目されていたのに対して日本は最近になって注目されはじめたということで、かなり遅い。その最大の要因が文化の違いにあるという言葉がとても印象に残りました。
- システムの利用率を上げるために、支援体制が重要であると感じた。
- 各大学の事例をお聞かせいただき、それぞれ学生の主体的な学修を支援、促進していく施策を考えられている部分は大変参考になりました。
- 私自身は大学の皆様に学習システムをご紹介する立場にありますので、今回勉強させていただいた事例を元に、多くの大学でより効果的な学修の仕組みをご検討いただけるよう啓蒙活動をしていきたいと思います。
- e-learning を実施するに当たり、学部自体の Stuff, technician etc.が圧倒的に不足している。FD は良いが、実施できる環境にないのが、不満である。
- バーチャルが必要。
- 学生を主体として考えると、支援環境の最も大きなものは教員である。
- その教員をどのように改革していくのか、表には出しにくい話も多いと思いますが、組織運営についても少し紹介していただけると有難いです。
- ポートフォリオ、e ラーニング等の学修形態の変化・進歩により、学生、教職員にとって有益なものになっていると思った。
- 特にないです。
- 少なくない科目が教養ゼミナール化しています。成績評価の信頼性が企業や外部から見るとおそらく改悪し、SPI 3 の幅を利かせる状況を助長させています。
- LACS へのアクセスを容易にしてほしい！スマートフォンでも可能か？（学生がなかなかアクセスしてくれないのではないか？）
- e ラーニングと国試対策授業の両立はむずかしい印象を持った。
- MAC と Windows のいずれも使用できるよう（ストレスなく）してほしい。
- 病院関係では教育は難しい。基本を等しく教えてからの話なので臨床となると患者ごとに異なり、その経験を伝えるのは困難かもしれない。
- 歯学部でも矯正科が「主体的に学ばせる」ため少人数のグループでディスカッションの講義をして他科も協力しているが、やる気のある学生は伸びるきっかけになるが、ない学生は全体の流れにまぎれて楽をしていると思っている。あるいは楽をしてもそれをとがめられない（主体性を尊重するから）。
- 国家試験があるため、どうすればこれを導入できるかよくわからない。
- 教員も、自分も含め教育は面倒なので、かなりサポートしてもらわないと困ると思う。

○　今回のシンポジウムの運営に関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入ください。

- 13:00～17:30 全てに参加すると長時間な感じがしましたので各公演の後に QA を入れた方が良かった（パネルディスカッションを省いて）と思います。
- 特にありません。
- 時間長い！
- 運営に関して特に不満はありません。
- 帝京と玉川の先生の話は参考になった。
- 仕様についてユーザーの使い勝手、現場の声をくみ取る体制を整える必要があると思います。
- 多くの大学から参加いただき、具体的な事例がよくわかりました。職員としても、活用していけたらと思います。
- 全体的に良かったと思います。
- 他大学の事例について知ることができ、有意義だった。
- さむい
- パネラーを減らして 1 人の話をもう少し長くするのか、聞く方も迷います。
- 素晴らしい企画で今後共、続けていただきたいし、シンポジウム運営についても問題なかった。
- 大変円滑な運営と思います。
- 特にないです。
- 今回の FD は、今長崎大学が必要としている課題と取組の焦点からずれています。教養教育の教室では、学生が教員から離れて着席する実態の蔓延化が続いていて、講義の ABC の A が成り立っていない。執行部はココから考えてほしい。
- 科研費の説明会と一部時間が重なっている点が残念でした。
- 大変重要なテーマだと思ったが、教員の参加が意外と少ない印象を持った。
- 事務から、「各科最低一人参加」といわれてきたが、出席の取り方の甘さは不愉快。どんどん人数が減って、最後は半分くらいになっている。
- 事務に出席を伝えてきたのに、名簿に入っていないのも不快。
- 自分が出席になっているのかも不明。名前だけ聞いて所属を言っても記録しない受付。
- LACS というものを導入するということを知らなかったが、大学がやる気であることはわかった。この周知は以前から行われていたのか気になる。
- 利用できる IT がまだ多くあり、すべてを理解するのが難しい。少しずつ取り入れたい。